



立正大学

2017年度 医療ソーシャルワーク論・ ソーシャルワーク総論Ⅱ 特別講義

朗読劇「三つ子になった雲」

この物語は、懸命に生き不治の病MLD(異染性白質ジストロフィー)に散った少女とその家族をモデルにしています。物語を書いた私とは旧友の少女の母親はこう語りました。「しかたないけど、やっぱり治療してあげたかった。いなくなるとさびしい…」と。この言葉を受け私は、衆議院議員時代の安倍総理に付き添われ、全国に患者が200人しかいないといわれるこの子どもの病気であるMLD。その治療法と治療薬の開発を求めに2012年に厚生労働省に行っていました。でもその後のことは、知らされていません。その時から5年後のいま、私は思います。「一人でも多くの方にこの病気の存在を知って貰わないと治療法と治療薬の開発は進まない」。そしてそれを語ることこそ、私のミッションであると。

ALS患者 船後靖彦(ふなごやすひこ)氏 (株式会社アース 取締役副社長、 サービス付き高齢者向け住宅サボテン 六高台名誉施設長)

- 船後靖彦(ふなごやすひこ)氏プロフィール
1957(昭和32)年生まれ。商社マンであった41歳に全身の筋肉が急激に委縮する難病であるALS(筋萎縮性側索硬化症)を発病。絶望の縁から這い上がり、人工呼吸器と胃ろうを装着。歯で噛むセンサーを使ってコンピュータを操作し、日常のコミュニケーションから執筆・創作活動、講演活動、大学の非常勤講師なども務める。2012年に訪問看護・介護サービスの株式会社アースの取締役に就任、現在は取締役副社長。サービス付き高齢者向け住宅サボテン六高台名誉施設長。利用当事者としての提言や職員教育に携わっている。
著書に『しあわせの王様』(小学館・共著)、『三つ子になった雲』(日本地域社会研究所)、『死ぬ意味と生きる意味』『「終活」を考えるー自分らしい生と死の探求』(上智大学出版・共著) など。



場所

立正大学熊谷キャンパス
アカデミックキューブ
A101

日時

2017年10月28日(土)
14時40分～16時10分

どなたでもお聞きいただけます。
お申し込みの必要はございません。
参加費は無料です。

お問い合わせ

〒360-0194
埼玉県熊谷市万吉1700
立正大学社会福祉学部
社会福祉学科 保正
t-hosho@ris.ac.jp